革新的な名作の前には
助走段階に等しい意欲作が存在する。
近代の作曲家ドビュッシーとピーゼの
「髣髴しおせぬ輝き」にこの秋は注目だ！

来月10月、東京芸術劇場が誇る人気のシリーズ「コンサートオペラ」が、日本
ではなかなか演奏機会のない舞台作品、ドビュッシーの『放蕩息子』とピーゼの
《ジャミレ》を演奏会形式で上演する。この2作はともに、「音楽史の明けの
明星」として、大作曲家たちの輝かしい未来をそれぞれ告げるものの、演劇
に接したなら、「やがて来る新時代」の勢いが確に感じ取れることだろう。

紫水晶の輝きを持つ「聖書由来のカンタータ」

歌の世界において、印象派の巨人ドビュッシーといえば、歌劇《ペレアスとメ
リシエンヌ》(1902)がブラチナの光沢を放っているが、清浄の登壇に打ちこたえる
作品で第1位を獲得したカンタータ《放蕩息子》(1884)も、聖者が好む紫水晶の
ように、清澄い澄みきりを宿す注目作であり続けている。物語は、古代の中東
を舞台に、出奔した息子アズマールの帰りを待つ母リュミンと父エミロの心模様
を捉え、最後には親子三人が再会して喜びあうというもの。コンクールの課題
曲なので20分ほどの小品だが、その内高のように柔らかな管弦楽が流れる果
てしない地平線を思わせて、想像以上に広がりのある作となっている。

本作の聴きどころとしてまず挙げたいのは、始まってすぐのリアのアリア
（来る年も来る年もむしゃくしゃ、息子の帰還を信じる母が悲痛な胸の内を
背負い、彼が来るのを待つ。）と、ドビュッシーの音楽ではメロディが最もはっきりし
ており、コンサートで聴かれることも多い名旋律である。

さて、10月のステージでこの母親役を歌うのは、これまで娘役のイメージが
強かった国際派ソプラノ、浜田理恵。も、デビュー曲ではもう歌っているんです
よりも遠かれた声ではある彼女の、名指揮者ミシェル・プラリののもとでこの役
を試す2度務めているということ。「おかげさまでディクショ（発音法）の大切さ
が身に付きました」と控えめな口調で語っていたが、今回指揮台に立つ佐藤正浩
も、同じくブラリソの薫陶を長年受ける声のエマストも、彼の手
のオーケストラ。ザ・オペラ・バンデ。新しいコンサートマスターを連れていっ
そ実装した演奏を聴かせるはず、実力派の歌声と共に大いに期待してみたい。

想像力が生み出したオリエンタルな音の画像

続いて、異国情緒の第一人者ピーゼについて、スペインを舞台とする傑
作《カルメン》(1875)は、今や世界一有名なオペラとして人口に親しみを喰
じているが、その前年に作られた《ジャミレ》(1872)は、エジプトの砂漠でスン
の女妖ジャミレが、相手にひたすら尽くし愛を捧げることで、男の見事
に紛れもなく美しい音楽劇の一作。王子の従者スプレンディアーノ
が狂言回しに務め、合唱団と共に舞台をにぎわわせる。

今朝ジャミレを歌うのは、オペラ界の一極で活躍するメゾソプラノ、鳥
木先生。深く響き合う声を放す、宝売の男役を思わせるキリッととした容貌
の持ち主だ。実は彼女もこのジャミレの役を既に演じているとのこと。「フランス
の歌唱指導の第一人者、ジャニー・レ・イズ先生に教えて、クレ
ルモネ＝フェランで舞台に立ちました。ジャミレって、簡単してあげると、言わ
われたのに、逆に貴重な役気を思い出させて、女の勝利を得る女性
でしょう、なかなかそんな人いないと思いますね（笑）、歌手のもの度目です
から、心理描写をより深めていきたいですね」とは話し込んでいた。

《ジャミレ》といえば、『カルメン』をも上回る「エキゾチックな音の画像」が
聴覚のオベラである。すっかり味わい深い曲の下で異彩を放つハチガラ女声
合唱へと続く音頭部。感動的に流れる中間部の男声コーラスなど、まじめや絵
は、この機を逃さず、ピーゼのイマジネーション豊かな旋律美にたっぷり浸っ
てみてしまいたい。
東京芸術劇場オルガン講座 第78回 夏休み -特別編- 芸劇のオルガンをたっぷり楽しもう！

夏休みは親子で楽しむパイプオルガン

東京芸術劇場コンサートホールには、世界で最も美しいパイプオルガンがあります。夏休みは親子でたっぷりとオルガンの響きを味わい、そして楽器について楽しく学びましょう！「パイプオルガン講座 2019 夏休み-特別編-芸術」は、親子で参加できる豪華なオルガンコンサートと、こうさくコーナーの2本立て！コンサートは3歳以上から入場でき、こうさくは小学校4年生以上対象です。

オルガン演奏前の「プレ・コンサート」には、芸劇ウィンド・オーケストラ・アカデミーの金管五重奏が登場し、トランスペント・オルガンなどの楽器紹介もあるのでぜひご覧ください。

今年のオルガンの演奏者は、山口雅史さん。J.S.バッハの名曲「主よ人の望みの喜びよ」や、オルガンと金管五重奏による迫力のサウンドでジーク作曲「大合唱の応答」もお楽しみいただけます。また当日は、ぜひ何か楽器を持ってきてください。リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、身近な楽器でも大丈夫。みんなでミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の「ドレミのうた」を合奏しましょう！楽器がなくても歌で元気に参加してくださいね。

こうさくでは、オルガンのパイプのように、本当に音が鳴る紙パイプを作ります。夏休みの自由研究にもぴったり。作ってみると、楽器がどんな仕組みなのかよくわかります。手作りしたパイプを使って、ステージ上で小さなオルガンと一緒に演奏体験も。暑い夏の1日を、涼しいホール内のオルガンとともに楽しく過ごしましょう！

文：飯田有枝（クラシック音楽フェスタディレクター）

8月1日（木）13:00開始 コンサートホール -コンサート 親子で楽しめるパイプオルガン・コンサート 14:00開始 コンサートホール -こうさく 夏休み！紙工作で紙パイプを作ろう！

NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇
構成・作編曲：狭間美帆

クラシックに演奏されるべきジャズの過去、現在、未来

のもととクラシックを学び、その後、ジャズへ向かうジャズ作曲家になった狭間美帆は、ジャズとクラシックの接点を探り続けてきた。今やその音楽は現代ジャズ・アンサンブルの枠にとどまらずジャズの心を持つ彼女だけのオリジナルなものになり、近年は世界のジャズ・アンサンブルのキーパーソンとしてその評価を見直し、ヨーロッパの名門ビッグバンドからのオファーも絶えないと彼女だが、その根底にはクラシックがある。

そんな彼女はこれまでのインタビューの中でクラウス・オガーマンに代表されるジャズとヴァイオリンの境界線上にいた作編曲家に幾度となく言及してきたが、その延長で「ヴァンステイクとガーシュウィンで終わりじゃないってマリア・シュナイダーみたいな人の作品がクラシックの人たちに演奏されるようになって欲しいし、されるべきだと思う」とも語ってきた。

狭間美帆はずっと前から、「NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇」のような機会を持っていったのだ。

その特別なステージのために狭間が選んだのがシャイ・マエストロだ。今やNYに欠かせない世界人気のピアニストで、名門ECMからリーダー作をリリースするシャイは、エレクトリック・ミュージックからクラシック、現代音楽、イスラエルの民族音楽まであらゆるものが溶け込んだジャズを弾きこなす。

ジャズとヴァイオリンの歴史をリスペクトしつつ、現在、そして、その先の未来を示すようなこの2人にしか表現できないステージになるはずだ。

文：横尾光栄（ジャズ評論家）

8月30日（金）19:00開演 コンサートホール 18:40より聴衆参加によるブリーフィングあり
構成・作編曲：狭間美帆
指揮：原田秀太郎
ピアノ：シャイ・マエストロ
管理：東京フィルハーモニー交響楽団

詳細はP15へ
トーキョー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティバル2019
TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2019 サラダ音楽祭

新企画にも注目のサラダ音楽祭
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、文化芸術イベントも盛り上がり見える中、今年も「サラダ音楽祭」がパワーアップして開催される。

2019年は日数・場所・プログラムを拡大！
「歌う！聴く！踊る！〜Sing and listen and Dance!!〜」のラジオ番組「サラダ音楽祭」や、昨年につづいて今年もパワーアップして開催される。メインプログラムの期間は9月14、15、16日の3日間で開催する。今年も戸沼のシャイニングエリアや、多くの人々が集う周辺のスポットも追加される。

多彩なコンサートやワークショップ
音楽祭のメインとなるオーケストラのコンサートは2種類。ひとつは「サラダがOK！歌ってOK！踊ってOK！」というコンサート「OK！オーケストラ」だ。

多様なコンサートやワークショップ
音楽祭のメインとなるオーケストラのコンサートは2種類。ひとつは「サラダがOK！歌ってOK！踊ってOK！」というコンサート「OK！オーケストラ」だ。

9月16日(月) 14:00 開演 コンサートホール
9月17日(火) 19:00 開演 コンサートホール
9月18日(水) 19:00 開演 コンサートホール
9月19日(木) 19:00 開演 コンサートホール

サラダ音楽祭公式サイト
salad-music-fes.com